

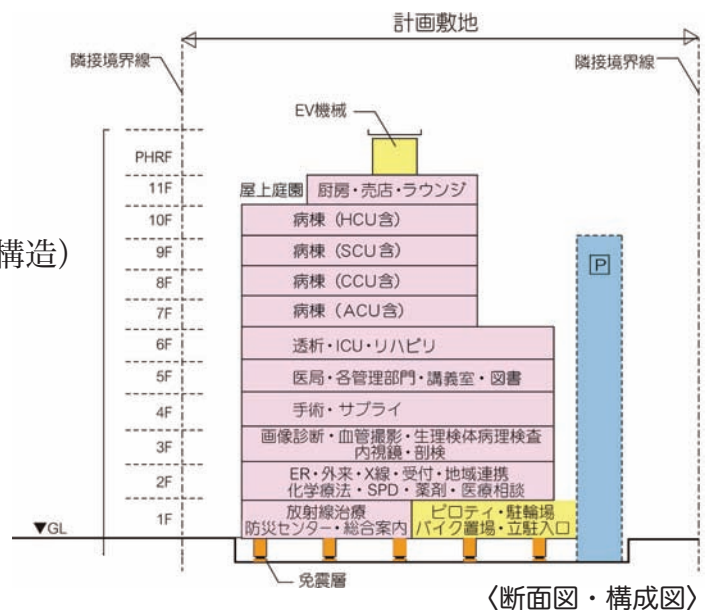
【新病院は、どんな病院？】

1998年(平成10年)に一般外来を「川崎幸クリニック」として分離したことにより、川崎幸病院の機能は、地域医療の要である救急医療とそれを支える高度医療に特化した急性期病院です。新病院では、現在の川崎幸病院の機能をより充実させるとともに、新たに放射線治療等の幾つかの機能を追加し、免震構造を備えた、次世代の医療を切り拓く施設を建設中です。

■計画概要

建物名称 : 川崎幸病院
計画地 : 神奈川県川崎市幸区大宮町 31 番 27
主要用途 : 病院
建築主 : 社会医療法人財団 石心会
設計監理 : 株式会社山下設計
施工〈分離発注〉: 鹿島建設株式会社 (建設工事)
東光電気株式会社 (電気工事)
株式会社大気社 (空調・給排水衛生工事)

敷地面積 : 3,628.33㎡
建築面積 : 2,270.17㎡
延床面積 : 21,267.69㎡
階数 : 地上 11 階・塔屋 1 階
最高高さ : 54.18m
構造 : 鉄筋コンクリート造(免震構造)
駐車場 : 約 80 台(立駐タワー含む)
着工 : 平成 21 年 11 月
竣工予定 : 平成 23 年 12 月
開院予定 : 平成 24 年 春



■主な医療機能

外来 : 救急、紹介、透析
入院 : 265 床(現 川崎幸病院 203 床+川崎幸病院中原分院 62 床)
主な設備 : ER (ホールディング 14 床)、重症病床 49 床 (ICU/ACU/SCU/CCU/HCU)、手術室 7 室 (ハイブリッド手術室含)、血管内治療 3 室、放射線治療室、化学療法室、内視鏡室 4 室、外来透析 35 床、入院透析 15 床、他

■設計コンセプト

川崎幸病院の〈私たちの目指すもの〉は以下の通りです。

1. 医学的根拠に基づく高度な医療
2. 患者主体の医療
3. 地域に密着した医療

この理念のもと、長年にわたり地域医療に尽力して参りましたが、建屋の老朽化、狭隘化が

顕著となり、これが私たちの医療活動のネックとなることがしばしば起こる様になり、新築移転計画の運びとなりました。この新築移転計画では、単に現病院を新築し拡大するというだけでなく、今まで蓄積されたノウハウを活かしつつ、次世代の医療機関としてどうあるべきか、幾つものコンセプトがあげられ検討されました。その中でも、特に地域医療という視点からは、以下の設計ポイントがあげられました。

1. 救急車を断らない病院
2. 特に、専門医療の各センターに関しては、地域で最高の医療水準を実現する病院
3. 地域の災害医療の中心となる病院

次号からは、これらのコンセプトを念頭に、各機能のご紹介をしていきたいと思えます。



〈11階屋上よりラウンジを臨む〉